

評価結果の内容にかかる審議結果

1 成果指標の妥当性などについて

(1) 質疑

Q1 指標1（都市公園面積）について

公園は、地域ごとの市民感情に差が出やすいと認識している。必要性の尺度を数とすべきか、面積とすべきか、適正管理の可否とすべきか、何を持って整備量を測るべきなのか難しい部分がある。

（適正管理の可否に係る判断材料としたいため、）参考までに、防犯カメラ設置状況や今後の設置方針を説明して欲しい。

A1 防犯カメラは、市民防災公園、富尊亀公園の2箇所に設置しています。

増設の場合は、市民活動団体、警察、防犯関係団体と協議し、検討していきたいと考えています。なお、大規模公園は、広域的な活用を見越して政策的に整備しており、小さな街区公園は、町内会の要望を踏まえながら整備しています。

Q2 指標1（都市公園面積）について

市の面積は、全国平均より高いものの、新潟県の平均よりは低い結果となっている。県平均に到達するよう、今以上に整備が必要だということか。

A2 新潟県の数値には、森林公園や自然公園など、大きな公園の面積が含まれているため、市の小さな公園を寄せ集めても県平均には到達しません。できるだけ、近づけるよう整備していきたいと考えています。

Q3 指標1（都市公園面積）について

地域から、新規投資のニーズが多いことは承知している。しかし、数の増加に伴って整備率は上がり、かつ、維持管理費や管理への目配せなどの負担も増加する。

必要量について、方針などがあれば説明して欲しい。

A3 御指摘のとおり、悩ましい問題です。しかし、公園予定地が相当数（83 箇所）残っており、順次整備していく必要があります。今は、明確な目標値をお示しできませんが、これを契機に検討していきたいと思えます。

Q4 指標1（都市公園面積）について

参考までに、全天候型施設の冬期間の利用率はどのくらいか。

A4 12月から3月の利用率は、年間の内26%です。冬期間でも、公園を利用することができます。

(2) 審議の内容

ア 指標1（都市公園面積）の達成度「○」について・・・「○」で合意

イ 指標2（遊具改修率）の達成度「○」について・・・「○」で合意

ウ その他指標1（満足度の向上）の達成度「○」について・・・「○」で合意

エ その他指標2（公園利用者数）の達成度「○」について・・・「○」で合意

オ 効果発現要因の整理について・・・・・・・・・・・・・・・・表のとおり了承

カ 意見

- (ア) 提案の目標値、評価値及び達成度について、異論なし。
- (イ) 都市公園は、数値だけでは測りきれない部分がある。
- (ウ) 事業の組立てや事業間の連携も含めて包括的な事業として、見通しが立っており、事業推進もスムーズで効果も発現している。
- (エ) 都市公園は、安全・安心が大前提であるため、安全になったことを評価できる。

2 今後の社会資本整備の方策について

(1) 社会資本整備の方向性に関する意見

- ア 公園は、非常に地域と密着した場所であって、一時の生活サイクルによって使い込むのが、公園の価値でありニーズである。
- イ 今回の遊具更新は、緊急対策のため妥当。ただし、次回更新の際は、数や種類の偏り、遊具を使用する年齢の人が、どれだけ居住しているのかなどを調査し、検証し、事前評価で真に必要な事業を確認して、効果的に進めていくことが望ましい。
- ウ (配置計画、利用率、日当たりなど要因は分からないが、)使ってみたくなる公園が、実際に存在する。死角を減らし、使いやすさに配慮した公園づくりを進めていくことが望ましい。
- エ 防災面におけるニュータウン運動公園の位置付けは、行政が効率的な災害対応を行う拠点と考えられ、ここでの市民の介在はほとんどない。一方、街区公園は、地域住民が、自分たちの安全を守るための一時の避難場所として機能する。それぞれの規模や役割に応じて、防災体制を応用させ、理解して、政策に反映させていくことが、ここでは大切になる。二つは、スケールが大分違うので、個々の役割分担をしっかりと整理すると、残された課題が解決できる。
- オ 今回、一気に遊具を改修したのは良いことだが、同時期の改修により、次回、改修時期も同じタイミングでやってくる。次に掛る費用が分からないため、的確なメンテナンス計画を立てて、きっちりとしたサイクルで、更新ができる仕掛けを考えておくと良い。(トイレも同様)

(2) ソフト面の施策展開に関する意見

- ア 「食育」の認知度は高いが、「花育」は認知されていない。緑化センターには、営利目的の事業にはないボランティアの要素や良さが沢山あり、花は、ローコストなため、費用対効果も非常に大きい。
- イ 市立劇場では、お客様をお迎えできるような空間づくりを目指し、NPO花いっぱい推進協議会、南中学校、花テラスから協力を得て、花を植える取組を推進している。また、取組を通じて良好な相互関係ができています。子育て支援団体ガイドブックには、それぞれの地域で、いろいろな活動をされている団体・個人がいる。子育て支援の視点で見た場合、意見をもらって連携していければ、より発展的な事業展開が期待できる。
- ウ 学校にも良きリーダーがいる。市民は、そこに住み続けるが、残念ながら、担当者は人事異動で交代してしまう。花いっぱい推進運動で、最も大切なのは人であり、リー

ダーの考え方一つでその後が決定する。また、行政の予算付けや力の入れ具合による効果も大きい。リーダーや人づくりに対し、如何に予算と時間を割けるかが、大事なポイントになる。

(3) 公園施設の管理、活用に関する意見

- ア 市内の公園を、定期的に全て点検することは大変だと思う。しかし、最低限の安全・安心確保は必要である。これまで以上に、きめ細かな対応が求められている。
- イ 自分たちの物（おらが公園）と思ってくれる人を、どれだけ増やせるかによって、管理の意識も変わってくる。地域との関わり方によって、もっと良くなる余地が残っている。

(4) 整備計画策定（指標の在り方を含む）に関する意見

- ア 評価するプロセスの中で、事業に取り組んだ意義や効果といった、数値に表れないことを総括する良い機会と捉えて評価作業を行うべき。
- イ 今回は、もっと適切な指標があった。例えば、花いっぱいフェアに関わった人の数、美化や緑化のプロセスに関わった人の数、若しくは地域への花苗の配布数など。
単に利用者ではなく、作っていく立場の一人として、どれだけの市民が関与したのかを評価してみると、事業全体が、市民に対し、いろいろな意味での効果を持った指標になり得るのではないか。
- ウ 長岡ニュータウン運動公園来場者数は、とても良い結果が出ている。10年から15年前には、一つも無かった全天候型公園施設が、近年、こうした社会資本整備の取組で増えてきている。年間利用者80,000人も大事だが、冬期間の利用率が、どのくらい上がっているのかが、市民ニーズに対して、満足度が高い事業なのではないかと考える。目的や思いが、市民に伝わるような評価作業を行った方が良い。

以 上